

「もとぶ」を巡る

モデルコース

A かすり工芸をたどるコース

村シーサーで邪気を払った後、かすりの道を織りの音を聞きながらゆったり散策。

かすり会館出発

本部シーサー

大城廣四郎織物工房

大城織機製作所

かすりの道

かすり糸伸ばし場

本部公民館

カンナ通り

B 糸と人に出会えるコース

うちなーんちゅに先祖からずっと伝えられてきた伝統と文化に触れながら、心の故郷を発見。

かすり会館出発

カンナ通り

デイゴ(獅子頭専用樹木)

ヒンブンがある民家

本部公民館

かすりの道

大城廣四郎織物工房

大城織機製作所

かすり糸伸ばし場

Where is 本部?

もとぶはどんなところ?

人口(男).....657人
(女).....635人
合計1,292人

世帯数.....423世帯
面積.....41.6 ㍊

(平成22年1月現在)



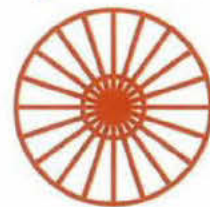
発行：特定非営利活動法人 南風原平和ガイドの会

住所：沖縄県島尻郡南風原町字喜屋武257
南風原町立南風原文化センター内

電話・FAX 098-889-2533

平成21年度 沖縄県雇用再生特別事業「シマシマガイド事業」

シャーラ・トントンが聞こえる



もとぶ 本部

南風原町

HAEBARU MOTOBU



特定非営利活動法人 南風原平和ガイドの会

★ 本部おもしろ話 ★

◎本部赤嶺



ムラの北側高台には「本部赤嶺」屋敷跡があります。首里王府時代の役人だった赤嶺は、十五夜などの慶事にはムラの人を招き入れ獅子舞や村芝居を披露して交流を深めていましたが、ある年、王府の怒りに触れ打ち首の刑に処せられることになったのです。その時に獅子舞の獅子頭と籠（ガン）をムラに寄付しました。

その獅子頭が戦後消失し、現在はムラの人々の力で復元されて公民館に保管されています。

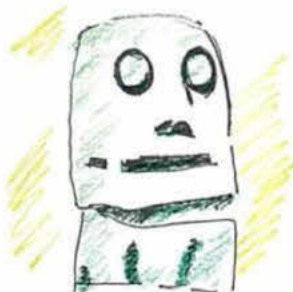
そこで子孫が絶えた赤嶺家の仏壇もムラの人で管理するようになりました。財産の全てを村に寄付した赤嶺役人への恩恵は後世に受け継がれています。



◎石獅子

石獅子（シーサー）はムラの守護神。かつては2匹いて、シー（精）高く火の玉を持つと思われていた東風平八重瀬岳を向けて、「邪気返し、火事よけ」として建てられました。

ところが隣の照屋が「本部のシーサーは照屋を向いてけしからん！」と激怒。照屋シーサーを本部に向けて建てたのです。当時、両ムラ間のユンヌカーという井戸の取り合いをしていたのが、シーサー争いのホントの理由とか。もちろん今は誤解も解け、



仲良し隣ムラです。

このシーサー、ご覧のとおり形や表情が一般のシーサーと違ってユニークなので知られています。沖縄戦で焼失したもう一匹は、どんな顔形をしていたのでしょうかね。



公民館の裏に植えられているデイゴの木。毎年みごとに花を咲かせます。

◎緋の村

かつて女性たちは小学校を出るとかすり織りを母から習い一生の仕事としてきました。本部に生まれ育ち、本部の人と結婚してずっと本部に住む年配の女性たちは、かすり織りの名手。

伝統工芸「琉球緋」は、沖縄戦で織り機も糸も全てが焼失しましたが、女性たちの織りの技だけが残りました。それを知った地元の大工の大城さんが、見よう見真似で織り機を作ります。これが本部の戦後復興の第一歩でした。

だから今も自分で織ったかすりをステキに着こなしているのですよ。



かすりのパッチワーク



花とかすり織りの村 南風原町



本部

青空にはえる鮮やかなカンナの花。道を行くと緑の庭木の間から、シャーラ・トントン、シャーラ・トントン、機はたの音。なぜか懐かしい本部の景色。



1 公民館(むらやー)

公民館の中に仏壇を配している珍しい所です。
 代々の区長はこの仏壇を守るのも大切な仕事。
 この仏壇にムラ人の健康と幸せを祈ります。

11 カンナ通り

2005年、区長の思いで植えられたカンナは道行く人の足を止め、いつの間にか区の新名所になりました。
 ハジカサー(恥ずかしがり)な男達のお蔭で花も元気に育っています。



10 ガン屋跡の祠

故人をお墓まで運ぶ沖縄独特の「籠(ガン)」を保管した場所です。当時への感謝の思いを込めて、今でも旧暦10月に拝みをする行事があり、その日はヤギを食べる習慣が残っています。



9 かすりの道

1989年に整備された本部と隣接する照屋、喜屋武にまたがる工芸の道。
 瓦やレンガをはめ込んだ舗装で、道の両側に立ち並ぶ絣工房から機はたの音が「シャーラ・トントン」と、のどかに響いてきます。



8 大城織機製作所

戦前は県内各地にあった機屋さんも、今ではここ大城さんだけ。戦後、織機製作を復興させたお父さんの技を継いだ二代目義政さん(選定保存技術保持者)が造りだす機はたは、一台一台がオリジナルのもの。県内離島や、遠く青森からの注文もあるそうです。



2 本部殿内(どうんち)

本部里主(武寧王の五男、本部王子)が移住してきて住んだといわれています。今はムラの拝所が全部まとめて祀られるムラ一番の聖地です。沖縄の「祖先崇拜」の考え方に触れてみましょう。



3 石獅子(村シーサー)

うーん、どっかで見たことのある顔……? 村の守り神として立っています。隣の照屋との仲たがいにこのシーサーもまきこまれてしまいました。さあ大変!
 [町有形民俗文化財]
 (☆裏面に続く)



4 かすり会館

琉球かすりの製造工程を見学、製品の即売も。高台なので、サトウキビ畑に囲まれたムラの静かなたたずまいを一望できます。

5 大城廣四郎工房

織りの名人・廣四郎さん(故人)の工房は三世代にわたってかすりを織っています。
 着尺をはじめ、楽しい小物も揃っていて、お店の2階では織り子さんの手織の業が見学できます。



6 糸伸ばし場(糸干し場)

原っぱに子どもの遊具? よく見るとピンと張られた糸が……。ここはムラに2箇所ある共同糸伸ばし場です。
 染めた糸をここで乾かして伸ばしてから、機はたにかけのるのだって。運がよければこういう風に糸が張られている様子を見ることができますよ。



7 イジュンガー公園

旧暦お正月の早朝、本部の人はこの井戸(今はない)の水を家々の火の神と仏壇にお供えました。公園の周囲に草木染め用の樹木が植えられ、人々の憩いの場になっています。

